

基盤的研究・人材育成拠点の活動状況について

2013 年 12 月 16 日

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策プログラム

1. 人材育成プログラムの開始

2013 年 4 月より、各拠点において大学院レベルの人材育成プログラムを開始。

各拠点の履修登録者は以下の通り。

分類	拠点名称	プログラムの種類	登録数	備考
総合 拠点	政策研究大学院 GIST	学位プログラム (博士・修士)	12 名	H25 年度入学博士課程：2 名 関連博士課程プログラム在席：10 名
領域 開拓 拠点	東京大学 STIG	部局横断型教育プログラム	88 名	
	一橋大学 IMPP	博士課程レベルサーティフィケートコース	4 名	科目単位での履修者数(延べ数)は 27 名 (夏学期 14 名, 冬学期 13 名)
	大阪大学 STIPS	副専攻等	15 名	
	京都大学 STIPS	副プログラム	9 名	
	九州大学 CSTIPS	専修コース(大学院共通教育科目)	53 名*	*課目単位での履修者数(延べ数) 前学期 21 名, 後学期 32 名

2. 拠点間共同プログラムの実施

運営協議会等の場で企画を検討し、以下のような取組を実施している。

1) 国際シンポジウムの開催

「政策のための科学」に関する海外状況の把握及び国際ネットワークの構築のため国際シンポジウムを毎年開催(別紙 1 及び 2 参照)。

回	第 1 回	第 2 回
開催日	2012 年 12 月 14 日(金)	2013 年 10 月 2 日(水)
テーマ	科学技術イノベーション政策の 過去・現在・未来	科学技術イノベーションにおけるガバナンス：現在の課題と政策選択
幹事校	政策研究大学院大学	東京大学
参加者数	174 名	116 名
主な招へい講演者 (敬称略)	Richard R. Nelson (コロンビア大学教授)、 Poh Kam Wong (シンガポール国立大学アントレプレナーシップ・センター長・教授)、 Andrew Stirling (サセックス大学科学技術政策研究所 (SPRU) 教授)、Robert Doubleday (ケンブリッジ大学科学と政策センターエグゼクティブ・ディレクター)	Henry Etzkowitz (トリプルヘリックス研究所 所長)、Joshua Rosenbloom (アメリカ・米 国国立科学財団)、Massimo G. Colombo (イ タリア・ミラノ工科大学)、Jan Staman (オ ランダ・ラテナウ研究所 所長)、Michael Decker (ドイツ・カールスルーエ工科大学 教授) 他

## 2) サマーキャンプの開催

各拠点の教員と学生が一堂に会し、それぞれの取組を理解するとともに、共通のテーマでの討論や異分野交流を通じて、相互のネットワークを形成（別紙3参照）。

回	第1回	第2回
開催日	2012年8月23日（木） ～24日（金）	2013年8月23日（金） ～25日（日）
場所	福岡県福岡市	茨城県つくば市
幹事校	九州大学	政策研究大学院大学
参加者	40名 (教職員35名、関係機関5名)	68名 (学生26名、教職員32名、関係機関等10名)
主な内容	<ul style="list-style-type: none"><li>● 各拠点における人材育成プログラムの検討状況に関する情報共有</li><li>● 拠点間の相互連携、拠点間共同プログラムに関する検討等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 現役行政官、メディア関係者による講演</li><li>● 学生による研究発表：SciREXに関連する研究テーマを持つ学生が発表</li><li>● 学生混成チームによるグループワーク：各拠点の学生が、教員の助言等をうけつつ、グループで政策提言（ビッグプロジェクトの立案）に取り組む</li><li>● 研究施設（高エネルギー加速器研究機構）見学</li></ul>

第3回は、大阪大学・京都大学が幹事校となり、2014年8月31日（日）～9月2日（火）に、兵庫県淡路市で開催予定。

## 3) 拠点ポータルサイトの開設・運用

基盤的研究・人材育成拠点のポータルサイト（<http://scirex.grips.ac.jp/>）を開設し、各拠点の活動や成果物等の情報の共有と発信、セミナー映像等の配信などを行った。

## 4) テキストの編纂

科学技術イノベーション政策のための科学のディシプリン確立に向け、共通テキストの編纂に向けて検討を行っている。

## 5) その他

政策構想ワークショップ、インターンシップ等については引き続き検討を行っている。

## 3. 次年度以降に向けての取組

### 1) 拠点間連携のさらなる推進

他拠点との教員の交流を推進し、既存のリソースを活用しつつ教育水準の向上を図る。  
(2013年度に教員相互交流に関する費用負担等の考え方を整理済み)

### 2) 共同プログラムの改善

今年度の実施内容と結果を踏まえ、共同プログラムの改善を図る。

(以上)

# 「科学技術イノベーション政策研究の過去・現在・未来」

日時: 2012年12月14日(金)10時~17時

場所: 政策研究大学院大学 想海樓ホール (東京都港区六本木7-22-1)

主催: 政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学、九州大学

後援: 文部科学省

言語: 日本語・英語(同時通訳あり)

## 趣旨

環境問題、雇用の確保、貧困からの脱却など様々な経済的、社会的問題の解決のために、科学技術イノベーションに対する期待は大きく、それを促進する政策に対する期待もまた大きなものがあります。このため、現在、各国の政府は効果的な科学技術イノベーション政策の立案・デザインをもとめて、知恵を絞っています。

科学技術イノベーション政策についての研究及び教育は、ヨーロッパでは、サセックス大学科学技術政策研究所(SPRU)やマンチェスター大学の旧PRESTなどが先駆的な存在としてリードしてきました。近年ではオランダやイタリア、北欧諸国などにおいても研究・教育拠点が形成されています。他方、米国では経済学、社会学、政治学など多様な研究領域のなかで研究が行われてきましたが、元大統領科学アドバイザーであった故マーバーガー博士による科学政策の科学(Science of Science Policy)の提唱以降、NSFの研究助成プログラム(SciSIP)による研究の推進がなされるとともに、省庁間横断でのデータ基盤の整備(STARMETRICS)などの実践と結びついた取り組みが行われています。

本シンポジウムでは、わが国における「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成プログラムに採択された各拠点のスタートにあたって、科学技術イノベーション政策研究に焦点をあて、さまざまな観点からこの分野の研究の動向、あるべき方向性などについて議論します。とりわけ、科学技術イノベーション政策研究はこれまでどのような研究成果をあげてきたか、さらに、それは実際の政策にどのように貢献してきたか、科学技術イノベーション政策研究と政策の関係はどうあるべきか、といった点を、この分野の代表的な研究者に語ってもらい、議論することを予定しております。

## 講演者



**Richard R. Nelson**  
コロンビア大学教授



**長岡 貞男**  
一橋大学イノベーション研究センター教授



**Poh Kam Wong**  
シンガポール国立大学  
アントプレナーシップ・センター長・教授



**Andrew Stirling**  
サセックス大学科学技術政策研究所(SPRU)教授



**Robert Doubleday**  
ケンブリッジ大学科学  
と政策センターエクゼク  
ティブ・ディレクター

## 参加申込

下記ウェブサイトからお申し込みください  
[www.scirex2012.jp](http://www.scirex2012.jp)



## 会場情報・アクセス(右図参照)

東京都港区六本木7-22-1  
最寄駅 東京メトロ日比谷線六本木駅  
東京メトロ千代田線乃木坂駅  
都営地下鉄大江戸線六本木駅



## お問い合わせ

「基盤的研究・人材育成拠点 国際シンポジウム」事務局  
E-mail [info@scirex2012.jp](mailto:info@scirex2012.jp)

# SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 基盤的研究・人材育成拠点 国際シンポジウム2013

SciREX International Symposium 2013  
 Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy

- 日時：平成25年10月2日(水) 9:30~17:00
- 会場：東京大学本郷キャンパス 弥生講堂・一条ホール
- 共催：東京大学 政策研究大学院大学 一橋大学 大阪大学 京都大学 九州大学
- 後援：文部科学省

## 科学技術イノベーションにおける ガバナンス—現在の課題と政策選択—

### Invited Speakers

#### Henry Etzkowitz

(アメリカ・スタンフォード大学)



スタンフォード大学H-STAR (the Human-Sciences and Technologies Advanced Research Institute) 上席研究員。イノベーションの創造と普及推進のために大学、産業界、政府が果たすべき役割と相互の関係を明らかにする著書『トリプルヘリックス』は2008年の刊行後、世界各国の言語に翻訳されている

#### Joshua Rosenbloom

(アメリカ・米国立科学財団)



米国立科学財団(NSF)科学イノベーション政策の科学(SciSIP)ディレクター。1988年スタンフォード大学博士号取得。専門分野は科学・技術・経済史の経済学および労働経済学

#### Massimo G. Colombo

(イタリア・ミラノ工科大学)



ミラノ工科大学 Management, Economics and Industrial Engineering 教授。主な研究分野は産業経済の技術変化と経営戦略の経済学。EU、CNR、イタリア政府、民間および公的機関の研究プロジェクトに数多く参加している

#### Jan Staman

(オランダ・ラテナウ研究所 所長)

2002年より現職。科学技術における政策形成や社会の意見形成への働きかけを目的としたテクノロジーアセスメントを中心とした研究を実施。オランダ農業・自然・食品安全省(LNV)における様々な職務に従事

#### Michael Decker

(ドイツ・カールスルーエ工科大学 教授)

カールスルーエ工科大学のTA専門機関 TA・システム分析研究所(ITAS) 所長代理。研究分野はテクノロジーアセスメント、学際的研究の方法論、ロボット工学のTAおよびナノテクノロジー

#### Peter Wiedemann

(ドイツ・カールスルーエ工科大学 教授)

TA・システム分析研究所(ITAS)のEMF Science Forum 座長。主な研究分野はHTA(Health Technology Assessment)

#### Zhao Yandong

(中国・科技发展戦略研究院 上席研究員)

科学技術社会研究所所長代理、上席研究員。主な研究分野は社会資本やソーシャルネットワークのリスクコミュニケーション

#### Annick de Vries

(オランダ・ラテナウ研究所 上席研究員)

ラテナウ研究所テクノロジーアセスメント上席研究員。エビデンス・ベーストポリシーのトレーニングプログラムの創設に従事

### 日英同時通訳付

- 参加費：無料(要事前申込み)
- 参加申込み：東京大学 科学技術イノベーション政策の科学教育プログラム事務局

URL <http://stig.jp/>

問合せ先：STIG@pp.u-tokyo.ac.jp

※講演者は都合により変更になる場合があります。

#### 東京大学弥生講堂 一条ホール



#### 【地下鉄】

・東京メトロ 南北線「東大前」駅下車 徒歩1分  
 ・東京メトロ 千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

#### 【都バス】

・御茶ノ水駅(JR中央線、総武線)より  
 乗51(駒込駅南口又は東43)又は東大(慶応大学前バス停)下車徒歩1分

## 2013年度 SciREX サマーキャンプ開催報告

2013年12月

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策プログラム

### 1. 開催結果

2013年度「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」(SciREX)基盤的研究・人材育成拠点サマーキャンプは、8月23日(金)～25日(日)の3日間、茨城県つくば市で開催された。各拠点から大学院生26名、教職員32名、その他講演者・関係機関職員等10名が参加した。

初日(23日)午後、開会式後の講演セッションでは、斉藤卓也氏(文部科学省 大臣官房 政策課 評価室長(併) 科学技術改革タスクフォース戦略室長)及び高橋真理子氏(朝日新聞編集委員)による講演が行われた。斉藤氏の講演では、実際に科学技術政策を担う行政官の立場からの問題意識とSciREXに対する期待について、高橋氏からは、過去のビッグプロジェクトを事例に、科学者集団や政治、国際交渉等がそれぞれ影響し合うプロセスについて話題提供がなされた。その後参加学生達は、ビッグプロジェクトの事例として高エネルギー加速器研究機構の大規模実験施設群を見学した。

2日目(24日)午前は、SciREXに関するテーマで研究に取り組んでいる学生による発表セッションが行われ、6名が自身の研究について発表を行い、各拠点の学生・教員と議論を行った。

2日目の午後から3日目(25日)の午前にかけて、学生は4つのグループに分かれてグループワークに取り組んだ。グループワークでは、事前に事務局より提示した3つの課題(次世代大型実験・観測施設、ライフサイエンス大型プロジェクト、次世代製造業育成のための大型プロジェクト)の中から1つの課題を選び、途中各拠点の教員からのフィードバックを受けつつ、具体的なプロジェクト立案に取り組んだ。各グループは3日目午前に最終発表を行い、午後の閉会式にて最優秀発表グループの表彰及び参加者への参加証明書授与が行われた。

### 2. 概要

期間：2013年8月23日(金)～25日(日)

場所：オークラフロンティアホテルつくば(茨城県つくば市)

主催：政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策プログラム

共催：東京大学 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット(STIG)

一橋大学 イノベーションマネジメント・政策プログラム(IMPP)

大阪大学\*・京都大学 公共圏における科学技術・教育研究拠点(STIPS)

(\*グループワーク部分メインデザイン担当)

九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター(CSTIPS)

### 3. 参加者内訳

所属	学生	教職員	小計
拠点校	26	32	58
[内訳]			
GRIPS	1	9	10
東京大学	7	7	14
一橋大学	3	5	8
大阪大学	8	3	11
京都大学	6	5	11
九州大学	1	3	4
講演者			2
関係機関（文部科学省・NISTEP等）			8
		合計	68

### 4. キャンプの様様



グループワークの様様



最終発表



集合写真

## 5. 2013 年度 SciREX サマーキャンププログラム

	8月23日(金)	8月24日(土)	8月25日(日)	
午前	-13:00 <b>移動・受付</b>	9:00 - 11:00 <b>学生研究発表</b> (2時間) - 1人約20分(12分発表+8分質疑) × 6名	8:30 - 10:00 <b>グループワーク(2):</b> <b>発表準備</b> (1.5時間) - 発表資料(提言)の完成	
		11:00 - 12:00 <b>昼食</b> (1時間)	10:00-12:30 <b>発表会</b> (2時間30分) - 各グループ25~30分 (質疑込み)	
昼		12:00 - 13:00 <b>グループワーク・ガイダンス</b> (1時間)	12:30-13:30	
午後	13:00-13:15 <b>開会式</b> (15分) -開会挨拶(GRIPS) -来賓挨拶(黒田昌裕 SciREX 推進委員長)	13:00-19:00 <b>グループワーク(1)</b> (6時間)	<b>昼食</b> (1時間)	
	13:15-14:55 <b>講演セッション</b> (1時間40分) (各講演30分、質疑20分)	13:00-15:00 <b>情報収集+問題設定</b> (2時間) - テーマに関する事前資料や当日配付資料、前日の講演や施設見学等を踏まえて、プロジェクトを設定 - 適宜休憩(以下同じ)	13:30-15:00 <b>閉会式</b> (1時間30分) - 講評と表彰 - 開会挨拶	
	13:15-14:05 講演1「SciREXへの期待」 斉藤卓也氏(文部科学省)			
	14:05-14:55 講演2「歴史に学ぶ巨大科学」 高橋真理子氏(朝日新聞社)			
	<b>【学生】</b> 14:55-15:20 移動	<b>【教員】</b> 14:55 - 15:30 チェックイン・休憩	15:00-17:00 <b>政策案のラフスケッチ</b> (2時間)	15:00 <b>解散・帰宅</b>
	15:20-17:00 <b>研究施設見学(KEK)</b> (1時間40分)	15:30-18:20 <b>拠点運営協議会</b> (2時間45分) -出版物等検討 -文部科学省等関係機関との意見交換	17:00-19:00 <b>専門家との議論</b> (2時間) -各拠点関係者やゲストと議論 -ブースを設け、自由に議論	
	17:00-17:30 移動			
	17:30-18:30 チェックイン・休憩	18:20-18:30 休憩		
	18:30-20:30 <b>懇親会</b> (2時間)	19:00-20:00 <b>夕食</b> (1時間)		
	20:30- 自由時間	20:00-22:00 <b>個別ブラッシュアップ</b>		